

練習課題 1 小規模なりゾートホテル

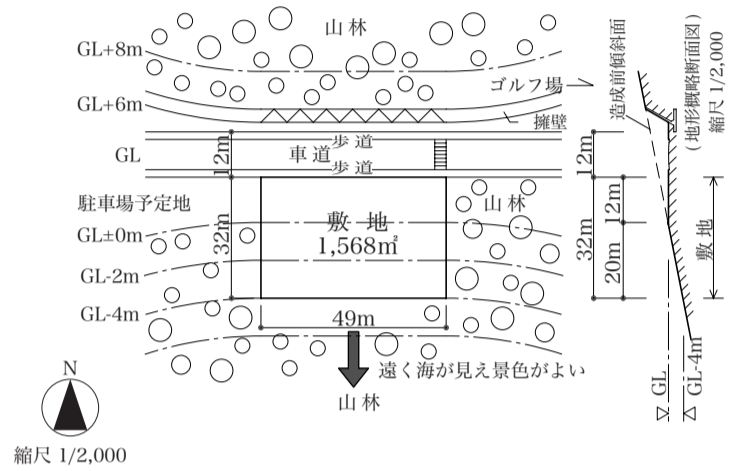
I. 設計条件

この課題は、都市近郊の海を臨む保養地において、小規模なりゾートホテルを計画するものである。この施設は家族連れ、友人同士、各種団体が宿泊する間、あるいは日帰り利用者が温浴施設や近隣のスポーツ施設を利用しながら豊かな自然を満喫しリラクゼーションを享受する場となるよう計画するものとする。

また、計画に当たっては、環境負荷低減のため、自然エネルギーを利用し、快適な室内環境が得られるような設計手法（パッシブデザイン）を、積極的に取り入れるものとする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- 敷地は、斜面を含むが、平坦な部分において道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまでできるものとする。
- 敷地は、都市計画区域及び準都市計画区域外の区域内にあるが、景観保全のため建蔽率の限度は60%、容積率の限度は200%の制限がある。
- 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- 地盤の状況は、次のとおりである。
 - 表土（GL～GL-1.5m）直下の地層は土丹層（GL-1.5m～GL-10m）で、長期許容支持力は300kN/m²である。また、土丹層の圧密沈下及び液状化の可能性はなく、杭打ちの必要もない。
 - 岩盤の深度はGL-10mである。
- 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。



縮尺 1/2,000

2. 建築物

- 構造、階数等
構造種別は自由とし、地下1階、地上2階建ての1棟の建築物とする。
- 床面積の合計
床面積の合計は、2,200m²以上、2,700m²以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等は、床面積に算入しないものとする。
- 要求室
下表の室は、すべて計画する。

部門	設置階	室名	特記事項	床面積
・温浴・セミナー部門及びレストラン、カウンターバー、売店は日帰り客も利用できるものとする。				
宿泊部門	2階	ツインルーム (全6室)	・ベッド×2、浴室、洗面、便所、談話スペース、ミニキッチン、ライティングテーブル、収納等を設ける。	各約30m ² 計約180m ²
		家族室 (全3室)	・ベッド×4、浴室、洗面、便所、談話スペース、ミニキッチン、ライティングテーブル、収納等を設ける。	各約60m ² 計約180m ²
		和室 (10畳)	・浴室、洗面、便所、床の間、押入れ、ミニキッチン、談話スペース (板の間)、収納等を設ける。	適宜
		ハンディキャップルーム	・ベッド×2、浴室、洗面、便所、ミニキッチン、ライティングテーブル、収納等を設ける。	
		談話コーナー	・15人程度が利用できるソファースーツを設ける。 ・分散配置としてもよい。	
		洗濯室	・コインランドリー形式とし、宿泊者が利用する。	
温浴・セミナー部門	地下1階又は1階	大浴室	・男性用、女性用として、それぞれ15人程度が利用できるようにする。 ・脱衣室には洗面コーナー、便所を設ける。 ・浴室にはサウナを設ける。 ・眺望に配慮する。	各約125m ² 計約250m ²
		マッサージ室	・男性用、女性用として、それぞれ3人程度が利用できるようにする。	適宜
		休憩コーナー	・大浴場利用後の休憩に利用する。 ・畳コーナー (10畳)、自販機を設ける。	
		娯楽室		約40m ²
		セミナー室	・無柱空間とする。 ・2室に分割して利用できるようにする。	約130m ²
		レストラン	・40人程度が利用できるようにする。 ・厨房を設ける。	適宜
共用部門	カウンターバー	・アルコール類、ソフトドリンクを提供し、5人程度が利用できるものとする。		
共用部門	1階	売店	・みやげ物、地域の特産品等を販売する。	約40m ²
		事務室	・5人分の事務スペースを確保する。	適宜
		更衣・休憩室	・男性職員用、女性職員用として2室設ける。	
		エントランスホール	・風除室を設ける。	
		ラウンジ	・20人程度がくつろげるよう、ソファースーツ、新聞・雑誌用の書架を設ける。 ・上部に吹抜け (40m ² 以上) を設ける。	
		フロント	・受付カウンターを設ける。	
クローク	・フロントと行き来できる。			
設備スペース (設置階は適宜)		・採用した設備計画に応じて、設備機械室 (空調、給湯・給排水衛生、電気、消火等)、屋外機器置場等を計画する。		
・便所、エレベーター、リネン庫、ごみ庫及び倉庫については、適切に計画する。 ・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。				

3. その他の施設等

- 戸外風呂は次のとおりとする。
 - 地下1階又は1階のピロティに設けるものとし、男性用、女性用としてそれぞれ40m²以上とする。
 - 大浴室から行き来できるものとし、ベンチ等を設け、眺望に配慮する。
- 駐車場は、車椅子使用者用として1台分、サービス用として1台分を設ける。また、さまざまな天候に配慮した車寄せを設ける。なお、利用者用及び従業員用の一般車、送迎車等の駐車場については、敷地西側の駐車場を利用するものとし、連絡口を設ける。
- (1)及び(2)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物はバリアフリー法特別特定建築物としてのバリアフリー、セキュリティに配慮する。
 - 宿泊部門、温浴・セミナー部門及び共用・管理部門を適切にゾーニングし、明快な動線計画とするとともに、避難等に配慮する。
 - 自然採光及び自然通風を積極的に取り入れる計画とするとともに、日射の遮蔽に配慮する。
 - 敷地の周辺環境に配慮する。
- 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
 - 構造種別、架構形式及びスパン割りを適切に計画する。
 - 地盤状況に配慮し、基礎方式を適切に計画する。
- 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - 空気調和設備、給湯・給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設けるとともに、環境負荷低減に配慮する。
 - 太陽熱、地中熱、井水等のいずれかを利用するなどし、環境負荷低減に配慮する。

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内 (寸法線については枠外でもよい。) に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面 (答案用紙Ⅰに記入)

下表により、所定の図面を作成し (フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。なお、各図面には、計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して明示してもよい。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階 (又は地下1階) 平面図兼配置図 1/200	① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法 (スパン割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等、要求室の床面積 ハ. 建築物の出入口 ニ. 設備シャフト [パイプシャフト (PS)、ダクトスペース (DS)、電気シャフト (EPS)] の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース
(2) 地下1階平面図 1/200	ヘ. 断面図の切断位置 ト. 要求室の特記事項に記載されている什器等
(3) 1階平面図 1/200	② 各配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 戸外風呂 ロ. 通路、植栽等
(4) 2階平面図 1/200	③ 地下1階平面図には、居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路、それらの距離及び重複区間の距離を記入する。 ④ 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 駐車場 (台数及び出入口を明示する。) 及び車寄せ ロ. 地下1階の屋根、ひさし等となる部分 ⑤ 2階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2つの直通階段に至る歩行経路、それらの距離及び重複区間の距離 ロ. 1階の屋根、ひさしとなる部分 ハ. ツインルームの室名 (T1、T2、T3、T4、T5、T6と表示する。) ニ. 家族室の室名 (F1、F2、F3と表示する。) ホ. 代表的なツインルーム、家族室及び和室、ハンディキャップルームの室内プラン
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、宿泊室を含む南北方向とし、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。 ③ 塔屋を除く建築物の高さ (GLからの高さでよい。)、階高、天井高、地下1階及び1階の床高、主要な室名を記入する。 ④ 基礎、梁及びスラブの断面を図示する。

2. 面積表 (答案用紙Ⅰに記入)

地下1階～地上2階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等 (答案用紙Ⅱに記入)

- 建築計画について、次の①～④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 利用者、従業員等のアプローチ及び車寄せ、駐車場等の配置について考慮したこと
 - 各宿泊室について、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと
 - 大浴室について、課金方法及び動線計画において工夫したこと
 - バリアフリーの観点から工夫したこと
- 構造計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りとこれらを採用した理由
 - セミナー室を無柱空間とする上で工夫したこと
 - 基礎方式の採用に当たって考慮したこと
- 設備計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - 採用した空調方式とその理由
 - 給湯設備計画について工夫したこと
 - 設備スペース及び設備シャフトの配置計画について工夫したこと

試験場	受験番号	氏名